

咽頭・喉頭病変の内視鏡診断と治療

1. 咽頭・喉頭領域における内視鏡的観察方法—スクリーニングと精査
2. 咽頭表在癌における疫学と癌発生のハイリスク患者
3. 咽頭領域で遭遇する Brownish area の取り扱い方
4. 耳鼻咽喉科から見た診断・治療における消化器内科との違い
5. 咽頭表在癌の内視鏡診断
6. ESD とその他の治療
7. 経口的手術後のフォローアップ
8. 頭頸部表在性扁平上皮癌の切除検体の取り扱いと病理診断上の問題点
9. 下咽頭から頸部食道にまたがる表在癌の取り扱い
10. 頭頸部アルミノックス治療(光免疫療法)

本特集を企画するにあたって

今回、咽頭・喉頭病変の診断や治療について特集を組むこととなった。その背景には、咽頭領域への関心とともに胃癌の減少がある。これまでの上部消化管内視鏡検査は胃癌の発見が主たる目的であり、咽頭・喉頭領域はただ通過するだけの臓器であった。しかしながら、咽頭表在癌が見つかるようになり、かつその発見頻度は経年的に増加が見られ、種々の内視鏡を用いた治療技術の進歩により高い確率で治療切除が得られ、全体の予後向上に貢献している。こうした状況を多くの医師と共有し、多くの内視鏡医や消化器内科医に最新の知見を得てもらうことで、一人でも多くの方の咽頭・喉頭癌治療に貢献することが必要である。

Guest editor 飯塚 敏郎

(がん・感染症センター駒込病院消化器内科)